

『茨城の“天然あゆ”を考える会議』を開催します。

茨城県の川にはアユが生息しています。川には県内外から多くの釣り人が訪れ、アユ釣りを楽しんでいます。また、県内河川のアユの漁獲量は、平成 17 年（2005 年）には 802 トンで、これは全国各地の河川と比べてかなり多く、県単位では全国一の生産量をほこっています。

アユの一般的な生活史（つまり一生のこと）は、秋から冬にかけて河川の中・下流で生まれて川を下り、冬の間は海や河川河口域などで生活し、春になると河川を遡上し、産卵まで河川で生活するというものです。もっと簡単にいえば、川と海にまたがる生活がアユの一生と言えます。学術的には、両側回遊といわれる回遊様式です。

アユに関わる人のあいだには、アユに対していくつかの呼び方があります。例えば、“天然アユ”と呼んでいる「人の手が加わらない状態で生活するアユ」や、“湖産アユ”と呼んでいる「通常、琵琶湖に陸封（かつては海域と淡水域とを行き来していたものが、淡水域に取り残されて世代交代を繰り返すこと）されたアユ」、そして、“人工産”と呼んでいる「人の手で産卵させて、放流サイズの大きさになるまで育てたアユ」などです。湖産アユは、コアユとも呼ばれ、最近は少なくなっているものの、全国各地で放流用に利用されています。人工産も放流用に生産されているものです。ここで、放流に焦点を絞れば、湖産アユも人工産も“放流アユ”と呼ばれて“天然アユ”とは区別されます。こうしてみると、アユには様々な分け方があり、かなりややこしいようですが、逆に、“天然アユ”がいかに特別なものであるかを物語っているようにも思えます。

天然アユについては、釣り人が選ぶ「天然アユがのぼる 100 名川」というものが平成 14 年度に選定されています（日本釣振興会）。選定は、1) 天然遡上アユがある、2) 釣り人の受け入れ態勢が良い、3) 「姿、風味」の良いアユが育つ、の 3 項目を基本に行われたそうですが、茨城県からは、久慈川が選ばれています。他の河川はどうかというと、茨城県の川としてではなく栃木県の川としてですが、那珂川と鬼怒川も久慈川と同じように「100 名川」に選ばれています。ただ、那珂川と鬼怒川のアユは、茨城県内を通過したアユでもあるわけですから、総じて茨城県の天然アユは人気が高く、高評価をいただいていると言ってもよいのではないのでしょうか。

このような天然アユがいる茨城県にとって大事なことは、もちろん天然アユが在り続けることです。そして、天然アユの存在の可否は、彼らがその生活史を全うできることに尽きるでしょう。

そこで、今回のお知らせになるわけですが、平成 19 年 9 月 30 日（日）に常陸大宮市文化センターの小ホールにおいて、別紙のとおり『茨城の“天然アユ”を考える会議』を開催します。内容の詳細はプログラムを参照いただきたいと思います。天然アユを保全しようとする活動で著名な高橋勇夫さんにご講演いただき、茨城県の天然アユについていろいろと考えてみようというのが趣旨です。参加対象は主にアユを利用する漁協の関係者ですが、アユは多くの方から愛されている魚ですので、アユが大好きな方の参加も募りたいと思います。会場の都合上、先着 60 名様とさせていただきますが、参加をご希望の方は平成 19 年 9 月 27 日までに、別紙プログラム中に記載された問い合わせ先までお申し込みください。よろしくお願いします。

(河川部)

文 献

高橋勇夫・東 健作（2006）ここまでわかったアユの本．築地書館，東京．267 pp.

日本釣振興会．釣り人が選ぶ「天然アユがのぼる 100 名川」（平成 14 年度）．

http://www.jsafishing.or.jp/field_e/e_03/index_e_03_02.html．2007 年 9 月 5 日アクセス．

茨城の“天然あゆ”を考える会議

～茨城の天然アユを育もう～

共催：茨城県内水面漁業協同組合連合会・茨城県内水面水産試験場

後援：久慈川漁業協同組合，那珂川漁業協同組合，桜川漁業協同組合，大北川漁業協同組合，
十王川漁業協同組合，鬼怒小貝漁業協同組合，日本友釣同好会日立支部

日時：2007年 9月30日（日） 13:30～16:00

会場：常陸大宮市文化センター（ロゼホール）小ホール

（常陸大宮市中富町3135-6，常陸大宮駅より徒歩3分，電話：0295-53-7200）

最近，全国的に『天然アユを増やしたい』，『これからは天然アユを大事にしていくべきだ』という声が聞かれます。これは，全国各地のアユの放流現場で発生した冷水病問題によるものだけでなく，放流種苗がもたらした遺伝的な問題（その地域に生息するアユの遺伝的多様性の喪失）や，釣れるか釣れないか，天然か放流か，などといった釣り人が求めるアユの変化，これまで種苗放流を行ってきた漁協の経営上の問題などによるものと思われます。

現在の茨城県では，放流種苗に冷水病が発生することはあまりないものの，漁協や釣り人などからは，天然アユを望む声が聞かれています。しかしこれまでに，“天然アユを増やすこと”がどういうことであるのかを考える機会はあまりなかったのではないのでしょうか。

茨城県には天然アユが遡上する河川がいくつも存在しています。漁協組合員が獲ったり釣ったりしてアユを利用しているのはもちろんのことですが，県内外からもたくさんの釣り人が訪れてアユ釣りを楽しんでいます。また，天然アユが遡上する河川の流域では，アユが地域の特産品としても大切にされています。茨城のアユはたくさんの人に愛されているのです。

今回は，アユの研究や天然アユの保全活動で著名な高橋勇夫氏を招いて，天然アユを大切にすることの意味や，他県漁協の先進事例，河川のアユの利用者がアユ資源に対してできることなどをご講演いただきます。そしてみんなで，茨城県の天然アユやアユ資源のことを考えてみたいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。

プログラム

13:30～ 開会

13:35～ 開催挨拶： 1）茨城県内水面漁業協同組合連合会会長
2）茨城県内水面水産試験場場長

13:45～ 開催趣旨説明： 茨城県内水面漁業協同組合連合会

13:50～ 講演 第1部

茨城の天然アユ ―茨城の天然アユ研究の今―

講演：茨城県内水面水産試験場 荒山和則 氏

つり人からみた“茨城のあゆ”

講演：日本友釣同好会日立支部 角田恒巳 氏

14:20～ 休憩

14:30～ 講演 第2部

アユを育てる川仕事

講演：（社）日本水産資源保護協会 派遣講師

高橋勇夫 氏（たかはし河川生物調査事務所）

15:30～ 総合討論&質疑応答

16:00～ 閉会

お問い合わせ：

茨城県内水面水産試験場（担当：河川部）

電話：0299-55-0324，FAX：0299-55-1787

e-mail：naisuishi@pref.ibaraki.lg.jp